

【中区】令和3年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和3年9月7日 午後3時 ～ 午後4時12分
場 所	中区役所7階 703会議室・704会議室（WEB会議）
出席者	<p>【座 長】伊波俊之助議員</p> <p>【議員：2名】松本研議員、福島直子議員</p> <p>【中区：27名】直井ユカリ区長、菅野孝義副区長、秋元政博福祉保健センター長、越川健一福祉保健センター担当部長、味上篤中消防署長、中山昭中土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和2年度中区個性ある区づくり推進費決算状況について 2 令和2年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業実績について 3 令和3年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業執行状況について 4 令和4年度中区個性ある区づくり推進費予算編成の考え方（案）について 5 その他
発 言 の 旨	<p>議題1～4について</p> <p>福島議員：決算と今年度の執行状況ということですので、共通する項目、継続的な事業につきまして、令和2年度の成果と令和3年度の進捗状況を確認させていただきます。区長から御説明の無かった部分ですけれども、まず3ページの安全安心地域防災力向上事業は、今年度も20ページで取り上げているわけですが、なかなかコロナの関係でイベントを実施することができませんでした。したがって、なかなか区民の皆様へ啓発のチャンスを提供することができませんでしたけれども、今後どこまでコロナが改善していくか、見通しがなかなか立ちづらい状況もあって、今後の取組方法として、オンラインの研修なども取り組むべきではないかと思いますが、そのあたりの取組状況を確認させてください。</p> <p>梶原総務課長：啓発の取組ですが、コロナ禍での市民向けの総合防災フェア、今年度は中止ということになりましたが、昨年度は、防災講演会なども3月に予定しておりましたが、残念ながらこの状況のなかで中止と</p>

させていただいております。それを踏まえまして今年度については、2年連続で中止はなかろうかと思っておりますので、講演会をオンラインで開催をすとか、やり方については工夫をした上で区民の方に伝えていければと思っております。また、先生方も御存知のとおり、広報よこはま区版の9月号では「在宅避難」を特集し全戸配布させていただきました。今後、いろいろな媒体を使って啓発を行っていきたいと思っております。

福島議員：毎回申し上げて恐縮なのですが、ぜひ拠点ごとの訓練につきまして、具体的な工夫をしていただき、拠点のそれぞれの防災力というか運営能力がなるべく均一になるような工夫を、ぜひ今後も具体的に進めていただきたいと思っております。令和2年度は女性ワーキンググループで討議した内容が報告としてまとまっておりまして、これを拝見いたしましたけれども、大変具体的できめ細やかな提案が盛り込まれていました。こういったものをぜひ拠点運営の役員のみならず、広く区民にもお知らせをして、実際に地域防災拠点に逃げ込むような事態になってしまわないように準備することと、そちらに行った場合にはどうなるのかということがリアルにわかるような、そういうイメージトレーニングというのでしょうか、防災のイメージ力をしっかり区民が培えるような研修をぜひお願いしたいと思います。大さん橋ホールのイベントは楽しいのですが、どうしても大人数を集められませんので、きめ細やかなというか拡大力において少し課題があるのかなという気もしております。ぜひ地域の課題をこんな時だからこそ、コロナコロナとなってしまうように災害対策、コロナも災害ではありますが、地震対策、水の対策、進むようにもう一工夫をぜひ、令和3年度お願いしたいと思います。以上です。

松本議員：多文化共生事業の中で外国の方への日本語の学習支援などをはじめとして、様々な文化交流を行っているとのことですが、外国人の方のワクチンの接種というのは、今どういう状況になっているのでしょうか。

秋元福祉保健センター長：外国人に対するコロナワクチンの接種の状況については、手元に細かいデータを持ち合わせておりません。申し訳ございません。

松本議員：例えばこういった交流事業の時には、コロナのワクチンを接種

されていない方々も当然混じっていらっしゃるかと思うんですが、今後当然外国人の方々も日本に滞在しているという中では、ワクチン勧奨というのはしっかり進めていかなければいけないと思うのですが、外国人の方々に対する接種勧奨というのはどのような形でやっていらっしゃるのでしょうか。

秋元福祉保健センター長：外国人についてのワクチン接種の広報については、今まであまり積極的にできなかった部分もあったと思いますので、今後検討させていただきたいと思います。

松本議員：あと一点懸念されるのが、日本語を学ぶために来ている学生さんたち、この方々当然日本の国籍は有していませんけれども、留学ビザで入ってきていると思うのですが、母国でワクチンの接種はおそらくされてないと思うのですが、そういった方々の把握というのもやはりできていないわけですか。

秋元福祉保健センター長：正式なルートではないのですが、日本語学校に来ている学生さんの数とかも、以前に比べると減っていると聞いております。今後対策が進んで、海外からの学生さんもまた増えてくると思いますので、そういったところへの接種勧奨というのもできるかどうか、健康福祉局とも調整したいと思います。

松本議員：ワクチン接種を日本でしていただくというのもなかなか難しいと思うのですが、やはりコロナの感染症に対する留意点ですとか、例えばワクチンを打ってなくても体調に変化があれば治療はしてあげないといけないと、そのあたりのルートを外国籍の方々であつてもしっかりとどこに連絡を取れば適切な医療が受けられるということは、きちっとお伝えをするべきだと思うんですが、ぜひそのあたりを進めていただきたいと思います。

秋元福祉保健センター長：中区で外国人の方が多くて、感染して発生届が医療機関の方からかなり上がってきていますので、外国人の対策も今後強化していきたいと考えます。

伊波議員：地域防災力の向上ですとか、まちづくり、あるいは多言語化の中でなんですけども、御承知のとおり横浜市、中区は人口の1割が外国の方々ということの中で、多言語化に対する紙媒体、あるいはホームページといったものが日本語、中国語、韓国語で作成・発信されています。その中で中国語というのは台湾の言葉と大陸の言葉と2つありますが、

大陸系の横浜山手中華学校があったり、台湾系の横濱中華学院が中華街にあったりと、こういったものは中区の特徴の一つだと思います。こういった教育機関とのしっかりとした連携というものも、横濱中華学院においては、過日、災害協定を結ばれたと思いますけども、そういったなかで中国語とひとくくりということではなく、繁体字・簡体字に分けて発信すべきと思いますが、そのあたりいかがでしょうか。

直井区長：これまでも先生からは、中国語につきまして、台湾の方が使っております繁体字でのパンフレット等の作成を御指摘をいただいております。その対応状況につきまして、区政推進課長から現在の状況を御説明申し上げます。

品川区政推進課長：中区ではホームページに、いろいろな言葉として自動翻訳をする機能があります。その中に、繁体字があり、基本的なホームページ情報は、すべて繁体字で読むことはできております。それに加えて現在、転入した外国人に向けて生活情報を母語で伝えるようなウェルカムリーフレットを作成しております。近年増加しております、台湾の方やタイの方、ネパールの方に向けて、繁体字やタイ語、ネパール語等も対応するように、今検討しております。今後もしっかり対応できるようにしていきたいと思っております。

伊波議員：あともう一つ防災がらみになるんですが、20ページの新規の防災の講座のところで、日中に災害が発生した場合、台風じゃなくて地震の方ですけれども、どうしても現役世代は仕事中心社会で動いているということで、地域にいないということになることが、中区においてはあると思うんですけど、そういったときに中学生のパワーが、いろいろと必要になってくるという部分があると思います。そのときに（2）で、仲尾台中学、そして港中学で防災出前教室を実施されたとありますけれども、仲尾台中については、風水害の時の避難所に数年前になってますし、港中は防災拠点、風水害両方になりますが、中区には他にもいくつか中学校があると思いますけども、そこに対しての対応はどうなっていますか。

梶原総務課長：仲尾台中学校での対応につきましては、日頃から立野小学校と2つの地域防災拠点で連携して、日頃から訓練を行っております。水の運搬訓練を、仲尾台中学校から立野小学校へ、子どもたちも含めて動けるよう訓練を行っていただいております。

伊波議員：立野小と仲尾台中は隣りあわせなんですね。一番ベストなパターンなんです。必ずしも小学校、中学校が隣り合っているという場所が中区にあまりないんですけど、例えば本牧小学校あるいは間門小学校の2つの拠点のエリアには、大鳥中学校、あるいは本牧中学校があつて、そういうところの中学校に対してはどうしていますか。

梶原総務課長：現在大鳥中学校については、地域防災拠点として指定はしておりませんが、拠点の避難スペースが不足する場合には、補充的な避難場所として避難所を開設する対象となっていることから、昨年度、大鳥中学校の生徒たちに向けて、拠点運営も含めた啓発をさせていただいております。今、拠点になっていない本牧中につきましても、今後行っていきたいと思えます。

伊波議員：中学生の力というのが、体力的にも地域に必要だと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

福島議員：先ほど松本先生から御指摘のあった外国籍の方へのワクチンの勧奨ですが、私たちと同じような形でワクチン接種券が届いているのか確認したいのと、先ほどセンター長から御答弁のありました今後の確認ができた時点で、また情報提供を途中で結構ですので、お願いできたらと思いました。いかがでしょうか。

直井区長：中区は外国籍の方も多くいらっしゃいますが、住民登録がありましたら接種券は送付されております。状況等につきまして局にも確認した上で、また私どもも調査した上で御回答させていただきたいと存じます。

福島議員：分かりました。ありがとうございます。あと決算予算からは離れるのですが、最近市長選挙もあつたもので、ツイッターを盛んに皆さん御利用になっている様子を拝見しておりますと、区民の方で米軍根岸住宅跡地に関してグループを立ち上げている方が盛んにツイートされているのですが、その中で現状の概略の計画図を大変心配をされて、道路付けについて反対だ、というようなお声を盛んに上げていらっしゃるのですが、この道路につきましてもとても重要なことでもありますし、また時間もかかることなので、私的にはなるべく早めに地域の皆さんと将来のまちづくりについて勉強会なり、意見交換会なり、どういう形でやっていくのがよいかも含めて、そろそろそういう動きを具体化して差し上げた方が、誤解が少なくてよろしいのではないかと思うのですが、将

来に向けたまちづくりの取組ですね、根岸住宅跡地の周辺について中区役所としてはどういうふうに取り組まれるか、現状でお考えがありましたらお教えください。

直井区長：根岸の返還地につきましては、政策局が中心となって進めておりますが、私ども区役所もともに区民の皆様に御説明し、また一番の地元である地区にも御説明等に伺っています。今後、局とともにいろいろと地元の方の御意見も伺っていきたいと考えております。詳細につきまして、区政推進課長から御報告申し上げます。

品川区政推進課長：これまでの経過について、少し御説明をさせていただきます。横浜市では跡地利用基本計画策定に向けて、令和元年6月に第一段階としてまちづくりの方向性を、令和元年の9月に第二段階として本地区が抱える課題に対する方向性を、まちづくりの基本的考え方としてまとめさせていただきました。令和元年7月から11月には地権者に対するアンケート調査を実施しております。令和2年10月に土地利用基本方針を根岸住宅跡地利用基本計画（案）として示すとともに、横浜市立大学医学部附属2病院等再整備の最有力候補地として検討を進め、構想案としてとりまとめ、市民意見募集を令和2年10月30日から令和2年11月30日まで行い、令和3年の3月末に根岸住宅地区跡地利用基本計画及び横浜市立大学附属2病院等の再整備構想を策定しました。ここまでは計画を策定しましたけれども、今後皆様から御意見あると思いますので、区長が言いましたとおり地域の声もしっかり拾ってですね、それを政策局の方にもしっかりと伝えていきたいと思っております。以上です。

福島議員：ありがとうございます。ぜひ具体的な議論をするテーブルをどういう単位でやるのがよろしいのか、なかなか難しい感じもいたしますけれども、既存の町内会や連合町内会の単位でもよろしいかと思っておりますけれども、なんとなく具体的な、皆が自由に意見が言えるようなものを作るのがいいのかな、と思っております。かなり事実誤認というか、資料が決定的なものであるようにおっしゃっている方もありまして、そのへんの御説明が十分じゃない、なかなか伝わらないのは常のことですが、どういうふうにしたら皆さんに誤解なく、また未来への希望として喜んでいただける政策になるようにしなくてはならないと思っておりますので、ぜひ担当の職員の方も交えて、十分なコミュニケーションが取れる工夫を、少しお早めにお願ひできたらと思っております。

備 考	その他、中区における新型コロナウイルス対策について説明を行った。